

スロベニア情勢(2012年8月:月報)

在スロベニア日本国大使館

2012年9月

1. 内政

- トウルク現大統領が13000名の有権者の署名を集め、次期大統領選挙に正式に立候補をした。
- トウルク大統領とヤンシャ首相が会談を開き、国内政治・経済状況について話し合いを行った。
- 政府が労働市場改革に着手した。

2. 経済

- 大手格付け会社3社(ムーディーズ、S & P、フィッチ)が、相次いでスロベニア国債格付けを引き下げ、見通しを「ネガティブ」に据え置いた。
- スロベニア統計局が2012年第2四半期経済状況を発表し、今期の経済成長は前年比2.2%の縮小となった。

3. 外交

- スロベニア外務省が、アナン国連シリア特使の辞任に関し、残念である旨プレスリリースを出した。
- 旧リュブリャナ銀行(LB)外貨預金問題に関し、スロベニア及びクロアチア両政府に任命された専門家による第一回会合が開かれた。

4. その他

- スロベニア史上最悪の熱気球事故が発生した。

1. 内政

I 大統領選挙を巡る動き

(1) 大統領選立候補へ向けた署名集めの開始

20日、大統領選正式立候補のために必要な署名集めを行うキャンペーン期間が開始した。各候補者は10月17日までに必要数の署名を提出しなければならない。大統領選挙へ立候補するためには、10名の議員、5000名の有権者、政党のいずれかの支持が必要であり、政党からの支持の場合は3000名の有権者の署名を集めるか3名の議員から支持表明を受けなければならない。

(2) トウルク現大統領の大統領選正式立候補

31日、トウルク現大統領は、13000名の有権者の署名を選挙管理委員会に提出し、正式に大統領選へ立候補した。約2週間で13000もの有権者の署名を集めることに成功した同大統領は、支持者に対して感謝の意を表明し再選への意気込みを示すとともに、どれほど多くのスロベニア国民が自分(ト

ウルク大統領)を支持しているのか今回の署名集めで示すことができた旨コメントした。

正式に大統領選挙へ立候補したのは、今回トウルク大統領が初めてとなる。ズヴェル欧州議員は民主党(SDS)と新スロベニア(NSi)の公認候補として3名の議員からの支持表明により正式立候補をする予定である。また社会民主党(SD)公認候補のパホル前首相は、正式立候補へ向け現在有権者の署名集めを行っている。

II その他

(1) トウルク大統領とヤンシャ首相の会談

25日、トウルク大統領の呼びかけにより、大統領とヤンシャ首相が会談を行い、国内政治及び経済情勢について話し合った。同会談で、ヤンシャ首相は、財政悪化の状況と野党による憲法への黄金律記載反対の影響等について大統領に説明をした。一方、トウルク大統領は、景気促進策の必要性和、

労働市場及び年金をはじめとする各種構造改革の重要性を強調した。

(2) 労働市場改革への着手

22日、ヤンシャ首相は、大手格付け会社による相次ぐスロベニア国債格下げを受け、政府の優先事項を変更し、年金及び労働市場改革を早急に開始することを発表した。

2. 経済

(1) 格付け会社大手3社によりスロベニア格付けの引き下げ

2日、ムーディーズはスロベニア国債の格付けを「A2」から2段階下の「Baa2」へ引き下げ、引き続き見通しを「ネガティブ」とした。主な格下げ理由として、スロベニアの銀行に対する更なる資本再構成の必要性とそれに伴う負債リスクの2点が挙げられている。ムーディーズは、スロベニア政府が国内最大手の新リュブリャナ銀行(NLB)に対し既に GDP 比1%ほどの資本援助をしていることに言及し、今後国内大手三銀行(NLB、新マリボル信用銀行(NKBM)、Abanka Vipava)が GDP 比2%から8%の資金援助を求める可能性があると予測している。「ネガティブ」の見通しについては、悪化を続けるマクロ経済環境がスロベニアの金融リスクを高め、対外援助を求める可能性が出てきているとの見解を反映したものである。

翌3日、S&P はスロベニア国債の格付けを「A+」から「A」に引き下げ、見通しについては、ムーディーズ同様引き続き「ネガティブ」とした。格下げ理由は、先のムーディーズと共通しており、特に昨今の信用不安と銀行セクターの脆弱性を挙げている。さらに、深刻化する政治対立と政局不安により構造改革がとん挫する危険をはらんでいるとの見方も示している。

8日、フィッチはスロベニアの長期発行体格付けを「A」から「A-」に引き下げ、見通しを「ネガティブ」とした。今回の格下げ理由として、スロベニアの銀行セクターの状況悪化、及び銀行の資本再構成を

25日より、連立与党は労働市場改革に関する協議を開始し、29日には、ヴィズヤク労働・家族・社会問題大臣が連立与党に対し労働法改正の素案を提示した。同大臣は、今回の労働市場改革について、非正規雇用契約への制限を課すことにより正規雇用を促進する一方で、雇用や解雇に伴う煩雑な行政手続きの簡素化を図る旨、コメントを出した。

巡る政府の対応の遅れが挙げられている。フィッチの見積もりによると、銀行セクターが不良債権に備えるためには新たに3.5十億ユーロの追加資本が必要であり、特に政府はGDP比8%に当たる2.8十億ユーロを融資する必要があるとしている。翌日、フィッチはさらにスロベニア国内6銀行の長期発行体格付けを引き下げ、右6銀行全てに対し見通しを「ネガティブ」とした。国内最大の新リュブリャナ銀行(NLB)と第2の新マリボル信用銀行(NKBM)の格付けは「BBB」から一段階下の「BBB-」に引き下げられた。フィッチは、両銀行の支払い能力強化に向けた対応の欠如と増資の遅れを指摘し、NLBとNKBMでそれぞれ1.5十億ユーロの追加融資が必要との見解を示している。

(2) 2012年第2四半期経済状況

31日、スロベニア統計局は2012年第2四半期経済状況について発表した。本年第2四半期の経済成長は前年比2.2%の縮小となり、第1四半期GDPに比べ1%落ち込んだ。主な原因は国内消費の減少であり、今期6.8%の落ち込みとなった。貿易に関しては、内外需要の縮小により今期は輸出入ともに減少し、輸出は0.5%減、輸入は5.4%減となった。同日、統計局は併せて2007年ー2011年のGDP値を修正し、昨年のスロベニア経済成長につき、マイナス0.2%成長からプラス0.6%成長へ訂正した。

シュシュテルシッチ財務大臣は、第2四半期の経済状況に関し懸念を表明する一方、現状から判断

して今年は追加の補正予算は必要ないとの見解を示した。また、重要な国内改革を実行するとともに、

3. 外交

(1) アナン特使辞任に関するスロベニア反応

3日、スロベニア外務省は、シリア問題で国連とアラブ連盟の合同特使を務めるアナン前国連事務総長が辞意を表明したことにつき、残念である旨プレスリリースで発表した。また同プレスリリースでは、併せて、スロベニアが引き続きアナン特使の調停プラン実現へ向けた国連及びアラブ連盟の活動を支持することを表明するとともに、国連安保理に対し、シリアでの紛争を停止するために、効果的な圧力をかけていく必要性を呼びかけた。

(2) 旧リュブリャナ銀行(LB)外貨預金問題

28日、クロアチアの旧リュブリャナ銀行(LB)の外貨預金を巡る問題の調査と解決のため、スロベニア及びクロアチア両政府に任命された専門家による第一回会合がスロベニアのオトチェツで開かれた。スロベニア政府代表のフランツ・アルハル氏(スロベニア中央銀行元総裁)は、今後の予定として、まずクロアチア政府代表のズドラウコ・ロギッチ氏(クロアチア中央銀行元副総裁)と協力して当該問題の基本的な事実関係をまとめる作業を行い、

4. その他

(1) 熱気球事故

25日、リュブリャナ郊外で熱気球の墜落炎上事故が発生し、乗客32名のうち、4名が死亡、28名が

EUへの財政コミットメントを満たすことでスロベニアの信用回復につながると主張した。

次回会合は約2週間後にクロアチアで行う予定である旨発表した。

スロベニア政府は、当該問題を旧ユーゴの承継交渉の枠組みで解決すべきものとして尊重することをクロアチア政府に期待している。この点に関しては、パホル前スロベニア首相とコソル前クロアチア首相の間で合意が成立していたが、今のところクロアチアは右合意を認めようとしない。その他スロベニアの抱える問題としては、クロアチア2銀行によるLB及び新リュブリャナ銀行(NLB)への訴訟も挙げられる。

エリヤヴェツ外相は、LBの訴訟問題が解決されれば、スロベニアはクロアチアEU加盟条約の批准作業に着手すると何度も繰り返し発言してきた。この点に関し、ロギッチ氏はLB銀行の預金者の問題をスロベニアのクロアチアEU加盟条約批准と結びつけるべきではないとするクロアチア政府の公式見解を改めて強調した。

負傷した。犠牲者の中には、子供や外国人観光客も含まれており、スロベニア史上最悪の事故と報じられている。